四季の森林で遊ぶ

森林で子どもを遊ばせると言っても、いつどこでどんなことをすればよいのか、すぐにイメージがつくものではないでしょう。
ここでは札幌大谷第二幼稚園がお薦めする一年間の活動をご紹介します。参考にどうぞ。

このカリキュラムは、札幌大谷第二幼稚園が20年近くも続けているものです。絶対に味わって欲しいと願っているものを、おおよその月に分けて列記しました。この中には、その時期でなければ味わえないもの、年間を通じて味わうほうが良いものなどがありますが、年齢別に分けないのは、活動そのものが0歳からでも通用するからです。その年齢に合った言葉で語りかけてください。

森林でのこれらの活動に対して成果を望むと、大人の望む教育の教え込みとなり、方向を間違えてしまうことになりかねません。森林での活動の成果は小学生以降についてくると信じます。名著「センス・オブ・ワンダー」の著者レイチェル・カーソンが「知ることは感じることの半分も重要ではない」と書いている通り、幼児にとって大切なのは、自然の事象に触れ、感じることなのです。大人はその時に幼児の旺盛な好奇心に寄り添って一緒に探検し、発見の喜びに共に胸をときめかせることが大切です。

子どもの教育的なステップアップを焦ることはありません。大自然の中に身をゆだねるだけで、子どもは自分の五感を通して偉大なものを感じ取っていくことでしょう。しかし、そこに連れて行き、大いに驚き、愛で、喜び、不思議がり、自然の神秘性を共にする大人はいなければなりません。幼稚園では教師がその役をしています。寄り添う大人さえいれば、「子どもの感じる心は豊かになる」ことと思います。これらの活動が森林で遊ぶ時のヒントになれば幸いです。

齊藤 千代（札幌大谷第二幼稚園長）

例えばこんなカリキュラム

	活動	活動内容	声のかけ方
4月	融雪を見る	雪解けの水が流れて合流し、大きくなっていく様子を見て、それが川になっていくことを想像する。	「この水、どこへ流れていくのかな。追いかけてみようか。」
	雪害を見る	雪の重みで枝が折れ、散乱する。それを拾って、柴刈りの体験をする。柴は工作や焼き芋などに使う。	「山にはたくさん木の枝が折れて、落ちているね。昔、おじいさんは山へ柴刈りにでかけて、こんな木の枝を集めてきたんだね。」
	木の芽を見る	木の芽吹きとともに冬芽の殻が下に落ちている様子を見て春の到来を感じる。	「木の下に落ちてるのは何かしら」冬芽の殻に興味を惹かせる。また、冬芽を割って葉の赤ちゃんを見る。
5月	野の花を見る	一斉に咲き出す北国の花の美しさや香りを楽しむ。	「きれいだね！」と共感する。花の名を知りたがるので、分かる範囲で教える。「キンギョじゃないよ。レンギョだよ」などと伝えると面白がってすぐ覚える。
	野草を食べる	野草を五感を使って見つけだし、味わうことで植物そのものや食や文化に対しても興味を持つ	「ヨモギの分からない人はにおいをかいでごらん」「タンポポとヨモギはどう違うかな」「何にして食べようか」
6月	木の花を見る	イタヤカエデやハルニレ、エゾマツなどに咲く花を知る。種になる過程を想像する。	「葉っぱの他に木についている物ってなんだろう」「あら…もう種がついているよ」「モミジにも花が咲くよね」
7月	雨の日の森を見る	普段見られない大きなミミズや大きなカタツムリが道で観察しやすい。森林のにおいや色にも注目。	「どうしてミミズやカタツムリが多いのかな。晴れた日はどうしているのかな」
8月	アリの行列を見る	アリが長い行列を作っている様子を観察する機会が多く、長さに驚いたり餌を運ぶ姿を観察する。	「どこからどこまで続いているのか、追いかけて見ようよ」
	忍び寄る秋を感じる	まだ緑の多い時期に秋の気配を感じさせる気配を探し出す。（紅葉、そよ風など）	「小さな秋」を歌って、「みんなで小さな秋を探してみよう」と呼びかける。ひときわ早く、きれいに紅葉するツタウルシに注意。

	活動	活動内容	声のかけ方
9月	危険な森の気配を感じる	薄暗い森の様子をうかがい「クマが出そうだ」分かれ道で「あっちは行き止まりっぽい」など、子どもに判断させる。	「クマがいたらすぐ教えてね」「クマがいたらこうするんだよ」などの呼びかけで子どもをわくわくさせる。
10月	紅葉を見る	誰が一番きれいな紅葉の落ち葉を見つけるか競う。春と同じ場所に行って違いを感じる。	「真っ赤な秋」などを歌いながら紅葉を子ども達と一緒に楽しむ。落ちてくる葉を見ながら「どうしてだろう」と疑問を投げかける。
11月	落葉を楽しむ	落ち葉の音を楽しむ。落ち葉をかけあう。落ち葉の山に潜ったり、中の虫を探したりして遊ぶ。	「耳をすませてごらん。いい音だね。」また、積極的に落ち葉を子どもにかけてあげる。
	動物を見る	落葉した木の梢に止まる鳥や、忙しく餌を運ぶリスの様子を見る。	「なんて言う鳥か図鑑で調べてみよう。色や形を良く覚えておいてね」「リスさんは何をしているんだろう。」
12月	霜柱を楽しむ	どのくらいの高さに育っているのか計ってみる。踏んで音を楽しむ。	「霜柱を見つけよう。誰が先に見つけるかな？」「踏んで音を聞いてみよう」「霜柱って、どうしてできるんだろう」
1月	雪を楽しむ	うっすら積もった雪で尻滑りしたり、木を揺らして木の上に積もった雪をかぶって遊ぶ。	「初尻すべりをしよう」「この木を揺らしてみよう。みんな、おいで」など。危険な場所に気を付ける。
2月	尻滑りと身体を鍛える	積もった雪でどこでも安全に尻滑りができるが、登ることに体力が必要。地形を見る目も育つ。	「登りやすい所、滑りやすい所はどこかな？」「怖いと思ったら足でブレーキをかけて。下に先生がいるから大丈夫だよ。勇気を出して」
	道なき道を歩く	夏には歩けない場所を直角に登ったりする。意外な場所に出たりするので、とても楽しい。	「ここを登ったらどこに行くのかな」とわくわくさせる。地形を熟知しておくことが必要。
3月	春の気配を探す	冬芽を割ったり、ネコヤナギの芽を見たり、つららが溶け落ちる音に耳を傾けたりする。	「どうして木のまわりの雪は解けるのが早いのかな。入ってみたい人はいるかな？」「あの白いふわふわしたもの（ネコヤナギの芽）は何だろうね」

例えばこんなカリキュラム

たとえば

山登りを通して育てる“思いやり”

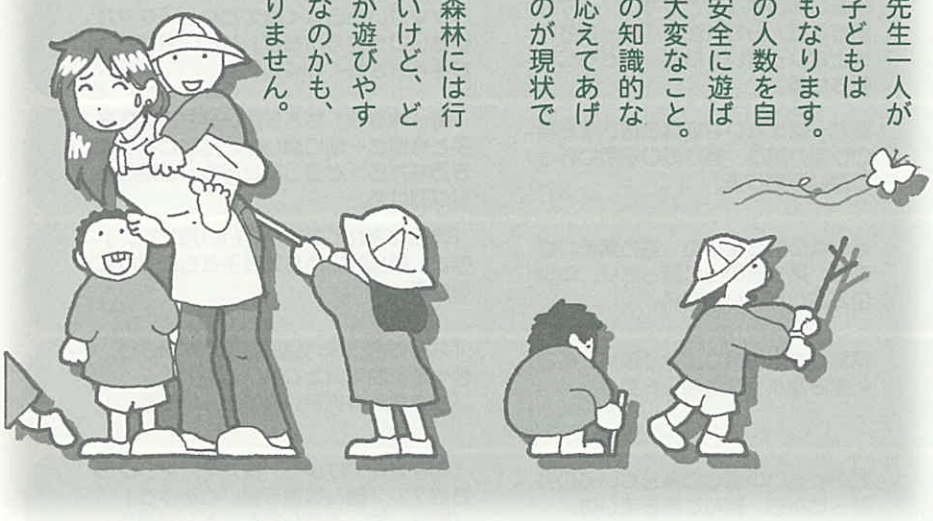
一年間、季節を変えて同じ場所で遊ぶことで、
○ぜんぜん違う自然の表情
○子ども達がだんだんと成長する様子を感じることができますよ。

	活動	活動内容	声のかけ方
6月	春山登山	同じ山の四季を感じるためには春に登山をしておく。草花の開花に関心を持つ。	「ゆっくりお花を見て登ろうよ」一人ひとりの体力をチェックしながら登る。
10月	夏山登山	自分の好みにあった仲間と一緒に登山をすることによって仲間意識を持ち始める。	グループ分けして登る「早く登りたい人、鳥や花を見ながらの人、ゆっくり登りたい人」など希望のチームに入って。
12月	冬山登山	仲間を助けながら滑ったり登ったりする。手間どるが仲間に対する思いやりが良く育つ。	「滑るから気を付けて」だけではなく「先生の靴、滑るの～。助けて！」と、助けを求めるとまるで救助隊のように飛んでくる。
1月	厳冬期の山登り	グループ分けをしないのに、お互いを気遣いあって声をかけながら登る。先頭と後尾の差があまりつかない。	厳しい状況の方が仲間意識が育つので、先生は様子を見ながらひたすら助けてもらう。

Q. 森林に連れて行くにしても人手も知識も足りないんですが…。

幼稚園で先生一人が受け持つ子どもは35人にもなります。それだけの人数を自然の中で安全に遊ばせるのは大変なこと。子ども達の知識的な要求にも応えてあげられないのが現状です。

それに、森林には行ってみたいけど、どこの森林が遊びやすくて安全なのかも、よく分かりません。



Q. 子どもの森林での活動を手伝いたいけど、登録できる場所はありますか？

昔は森林の仕事をしていて、知っていることを子どもに伝えたい！森林での昔の遊びを子ども達に教えたい！

でも、どうしたら子ども達と遊べるのか分かりません。

A. お問い合わせ下さい。ご相談に応じます。

幼稚園の一つのクラス単位で外に遊びに行くのは、安全管理、子ども一人一人へのケア、集団をまとめることなど、たくさんの仕事があります。でも、そのほとんどを一人の先生が担当しなければならないのが、多くの保育園や幼稚園での現状でしょう。それは、事実上は森林で子どもを遊ばせることが困難であるということにつながっています。

でも世の中には、幼児の自然体験に対して無償でお手伝いをしたい！という方々、団体があります。その人達は、子どもと遊ぶのが得意だったり植物の事をとても良く知っていたりします。そんな方々に手伝ってもらえば、思っているよりもずっと簡単に野外で子どもを遊ばせることができるでしょう。

今、そういったボランティアの方々のネットワーキングが進んでいます。きっと、素敵なお手伝いが見つかりますよ。ご相談はいつでもお受けしています。まずはお気軽にどうぞ。

林野庁北海道森林管理局
石狩地域森林環境保全ふれあいセンター
TEL.011-533-6741　FAX.011-533-6743
E-mail: h_ishikari_f@rinya.maff.go.jp

最後に

子どもは森林でよみがえり、森林は子どもによってよみがえる。

森林環境教育の幼児向け教本が今まで無かったこと自体が不思議です。

このガイドブックを編集するにあたり、札幌大谷第二幼稚園の事例に触れ、幼児こそ森林で育てるべきであり、森林幼稚園という発想が新しい森林の公共性を生み出すと確信しています。特に今回フィールドとなった北海道や石狩地域には都市部になお自然豊かな森林が隣接して存在しており、その特性を活かした教育活動が広がっていくことを期待します。そして近い将来には森林の中に常設の幼稚園ができればなどと夢は広がります。このガイドがその最初の一歩になれば、編集一同幸いです。

森林の中に幼児の声がこだまするとき、森林もうれしそうに見えるのは私だけでしょうか。

最後にこのガイドブックを作るために協働して下さった下記の皆様に感謝いたします。

森林環境教育ガイドブック
検討委員会　委員長
宮本英樹

もりのなかでこどもはかがやく
乳児-幼児のための森林環境教育ガイドブック

STAFF

検討委員会　伊藤 輝之（NPO法人ねおす）齊藤 千代（札幌大谷第二幼稚園）
檜山 知弘（NPO法人ねおす）三木 昇（北ノ森自然伝習所）
宮本 英樹（NPO法人ねおす）
プランニング　田坂 仁志（北海道森林管理局計画部企画官（自然再生担当））
制作統括　猪股 英史（石狩地域森林環境保全ふれあいセンター所長）
マネージメント　小國 敬篤　佐藤 淳一　白藤 末人（石狩地域森林環境保全ふれあいセンター）

編集　伊藤 輝之　檜山 知弘　宮本 英樹
執筆　伊藤 輝之　猪股 英史　齊藤 千代　檜山 知弘　三木 昇　宮本 英樹
取材協力　札幌大谷第二幼稚園
運野 淳（木の店 AU・AU）
煙山 泰子（KEM工房）
澤口 俊之（北海道大学）
長谷川 敦子（NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ）
写真　大熊 彰　札幌大谷第二幼稚園　檜山 知弘　三木 昇
イラストレーション　檜山 知弘
デザイン＆DTP　檜山 知弘
（五十音順・敬称略）

発行人　林野庁北海道森林管理局
発行所　林野庁北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター
〒064-0809 札幌市中央区南9条西23丁目1-10
TEL. 011-533-6741 FAX. 011-533-6743
発行　平成17年3月

a textbook for
Infant
Environmental
Education
in the forest

感覚の発育
生命への気づき
多様性への認識
運動能力の発達
文化の継承
コミュニケーション能力
森林環境への知識
森林保全のための作業
森林と人のつながり

もりのなかで こどもはかがやく

乳児ー幼児のための森林環境教育ガイドブック
林野庁北海道森林管理局 石狩地域森林環境保全ふれあいセンター
制作協力：札幌大谷第二幼稚園　北ノ森自然伝習所　NPO法人ねおす

この本は、大豆を利用した植物性インキと古紙配合率70%の再生紙を使用しています。